



地域連携室便り

愛媛県立中央病院
地域医療連携室

No. 24 (2022年5月)

直通TEL 089-987-6270 (前方連携)
089-947-1165 (後方連携)
FAX 089-987-6271



立夏の候、皆様におかれましてはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

地域連携室便り No.24 5月 を発行いたしました。気軽に読んでいただけるようにと考えておりますが、皆様方からのご意見をいただければ幸いです。聞きたいこと・知りたいこと等、ぜひお知らせください。この機会にぜひメール登録をよろしく願いいたします。

今回の内容

- ① 新入職員(看護師)紹介 宮本和可
- ② 室長挨拶 二宮朋之
- ③ 形成外科・顎顔面外科 診療科紹介 中川浩志
- ④ 第113回医療連携懇話会を振り返って 玉木みずね
- ⑤ 改善コラム Part 5 原田雅光
- ⑥ 地域医療連携室からのお知らせ～メールのご登録のお願い～

① 新入職員(看護師)紹介

地域医療連携室 宮本 和可

4月から勤務しております、看護師の宮本和可です。異動前はNICU/GCUで勤務しており、地域医療連携に携わる機会の少ない部署でした。そのため地域医療連携室の看護師として何をするのか、できるのかとても不安な気持ちで一杯でした。今は、先輩方の対応をそばで見せていただきながら、コミュニケーション技術や面接方法を学び、介護保険制度や地域連携について勉強しております。

まだまだ知識も理解も不十分なことが多く、電話対応するにも発せられる言葉が呪文のようで、聞き取ることも儘ならない状況です。先輩方の丁寧で優しい言葉使いを聞きながら落ち込んだりもしています。電話対応では、お相手の表情はわかりませんが、お互いに笑顔で電話を切ることができれば良いと思います。自分の言葉で必要な情報が的確に伝えることができる様これからも努力したいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。





② 室長挨拶

消化器病センター長・地域医療連携室長 二宮 朋之

皆様こんにちは。本年4月に地域医療連携室長を拝命しました二宮朋之（にのみやともゆき）と申します。2017年4月から副室長をしていたためご存知の方もいらっしゃるかもしれません。あらためて一言ご挨拶申し上げます。

平素は、当院の医療にご理解とご協力を賜りあらためて感謝いたします。

私は西予市明浜町出身で1990年愛媛大学卒業です。2002年6月に内科医長、内視鏡室長として愛媛大学附属病院光学医療診療部より赴任し消化器疾患、特に消化管疾患の診断、治療を担当しております。2017年4月に消化器病センター長に任命され、同時に地域医療連携室副室長を拝命しました。消化器内科の責任者として当院の使命である高度急性期医療に注力し救急疾患の当日紹介を積極的に受け入れて参りました。他方、地域がん診療拠点病院としてがん医療にも積極的に携わり、地域の先生方から多くの患者様をご紹介いただいております。誠にありがとうございます。

さて、今年地域医療連携室の目標に地域医療ネットワークシステム【媛さくらネット】の登録医療機関数増加を掲げています。昨年やっと運用が開始された媛さくらネットですが、4月25日現在、登録医療機関数が11件、登録患者数（医療機関からインターネット経由で患者のカルテを見ることが出来る）は23人です。まだまだ周知・案内が足りないと感じております。また、医療機関として登録はしているものの患者登録をしている医療機関は3件にとどまります。患者登録をいただきますと、紹介していただいた当日に血液検査や放射線画像レポート等がリアルタイムで確認できます。患者様が先生の病院を受診する前に結果を知ることができます。カルテ記事の参照はまだできませんが、退院時サマリは近いうちに閲覧できるように調整中ですので今しばらくお待ちください。

ひとつお願いがあります。昨今世間を賑わせている医師の働き方改革の問題です。当院もこの春に働き方改革本部が立ち上がりました。少しずつ超過勤務時間を減らし職場環境の改善を目指して対応が始まります。地域医療連携室としては逆紹介を推進し、紹介元へお返しすることがこの改革に寄与することと考えています。地域の先生方にはご迷惑をおかけすることがあろうかと思いますがご協力をお願い申し上げます。

これまで多くの症例をご紹介いただき、心より御礼申し上げます。引き続き、地域の先生方と顔の見える関係作り、切れ目のない受入体制を強化し円滑な連携を構築できるように努めて参ります。今後ともご指導、ご鞭撻を賜りますよう、よろしく願い申し上げます。

③ 形成外科・顎顔面外科 診療科紹介

形成外科・顎顔面外科 主任部長 中川 浩志

形成外科という科をご存じでしょうか？

名前は何となく聞いたことがあるけれど、実際には何をやっているのかよくわからないという方がほとんどではないかと思います。

日常診療を行っていますと患者さんから

- ①「形成外科と整形外科はどこが違うのですか？」
- ②「先生は美容もされるのですか？」
- ③「先生は皮膚科の先生なんですよ。」…などと言われたことは数限りなくあります。

それも形成外科の認知度が低いために言われることだと思っています。

- ①整形外科とは名前が似ていることで一般に誤解が生じることがあります。手の外傷等、一部境界領域があるもののすみ分けはできています。
- ②形成外科医＝美容外科医という認識が一般にあるのでしょうか。私たちは、美容外科は形成外科の延長上にある一分野であると考えています。当院においては県立病院ということもあり自由診療である美容外科は行っておりません。ご理解いただきたく思います。
- ③形成外科医は皮膚科出身の医師も多くいらっしゃいますが、当院に関しましては皮膚科出身の医師は在籍しておりません。全く別の科と考えてよいと思います。

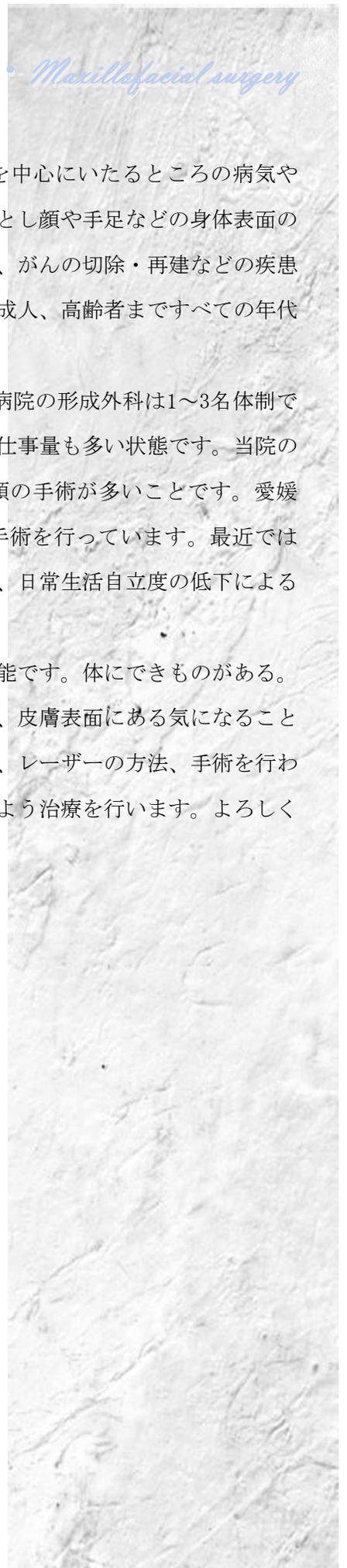
このように、まだまだ認知度の低い形成外科ですが、形成外科の歴史は古く、紀元前6～7世紀のインドで鼻削ぎの刑を受けた人に対する造鼻術などが報告され、形成外科の起源とされています。近代では第一次世界大戦で兵器による顔面外傷、骨折、広範囲の組織欠損など、多くの戦傷者が発生したため形成外科手術が著しく発展し、plastic surgery（形成外科）として独立したといわれています。日本では1958年に第1回日本形成外科学会が開催され、その後六十数年経過し少しずつ発展してきています。

では、形成外科はどのような疾患を対象にしているのでしょうか？多くの診療科は臓器別で呼称を行っているため（消化器内科、脳神経外科、耳鼻咽喉科など）、対象の疾患がわかりやすいのですが、形成外科は臓器別ではありませんので、対象疾患がわかりづらくなっていると思われま

一般的に形成外科は頭先从手や足の先まで身体の表面を中心にしたところの病気やケガを治しています。傷や変形をきれいに治すことを主な目的とし顔や手足などの身体表面のケガや顔面骨骨折、やけど、あざ、腫瘍、先天異常、皮膚潰瘍、がんの切除・再建などの疾患を対象としています。治療する患者の年齢も新生児、小児から成人、高齢者まですべての年代におよびます。

当院の形成外科は現在5名のスタッフで活動しています。他病院の形成外科は1〜3名体制であることが多いので比較的恵まれた環境といえますが、その分仕事量も多い状態です。当院の特徴は顎顔面外科を併記している通り顔面骨骨折を主とした顔の手術が多いことです。愛媛県内の各病院、診療所より多くの患者さんをご紹介いただき手術を行っています。最近では糖尿病を主とする生活習慣病の合併症としての下肢潰瘍の患者、日常生活自立度の低下による褥瘡の患者が多くなってきています。

当科では美容外科を除く形成外科疾患につきまして対応が可能です。体にできものがある。あざがある。ケガをした。やけどをした。傷跡が気になるなど、皮膚表面にある気になることがあれば、ぜひ形成外科を受診してみてください。手術の方法、レーザーの方法、手術を行わない方法等説明し、スタッフ一同、親身になりご希望に添えるよう治療を行います。よろしくお願いたします。



④第113回医療連携懇話会を振り返って

副院長 玉木 みずね

令和4年度最初の連携懇話会で 私に与えられたテーマは「高齢者」です。

ご存じの通り、日本は世界的にも類を見ないスピードで超高齢社会に突き進んでいます。

当院のような急性期病院においても、患者層の高齢化で、疾患を治療するという医学的問題だけでなく、独居やADL低下、認知機能低下などの患者さんにまつわる社会的問題に直面し、対応しなければならないことが増えたという実感があります。また、高齢者には人生の終盤に、どのように暮らし、死を迎えるかという課題があります。これらの問題は「病気を治す」だけの医療では対応は難しく、また、一つの医療機関だけで抱えられるものではありません。

今回の連携懇話会の構成は、[高齢者と向き合う医療]というテーマでまず私から「身近で始まっている高齢者問題」と題して、当科で経験した事例から、高齢者をとらえるフレイルという包括的な考え方、多面的な高齢者問題へ対応するために多職種連携が重要であることをお話させていただきました。

2題目は、総合診療科：青木一成医師が、「終末期の意思決定支援とケアについて」と題して、終末期を迎えた認知症患者と家族の気持ちに寄り添いながら、より良い終末期を過ごすためのプライマリケア医として意思決定支援を行った事例を発表しました。誰もが迎える終末期ですが、本人から事前指示が残されていないことも多く、自律性が損なわれている末期認知症患者では、意思決定が困難です。また、代理意思決定を求められる家族にも死の受容ができず、本人の推定意思に反して延命治療が選択されてしまい、本人・家族ともに苦しい時間を過ごすという問題点も指摘されています。そのような例に対して患者家族と良好な関係を築きながら、丁寧に病状と予後を説明し、家族の介護力をも勘案しながら多職種と連携して、患者の尊厳とQOLの尊重を達成することを目標に方針を決定する大切さが示されました。

3題目は、地域医療連携室：松田 まどか医療ソーシャルワーカーより、「高齢社会における急性期病院の地域医療連携室の役割」と題して、ますます重要性が増している当院の地域医療連携業務についての講演でした。患者さんたちが住み慣れた地域でよりよく生活していくことを目指して、急性期病院から地域の医療機関や公的なサービス・関係機関へ適切に繋いでいく役割や、地域の関係機関からの情報を当院でも共有して共に患者さんたちを支えていく役割を担い、双方向に繋がる連携を行っていることが紹介されました。

いずれの講演も、「高齢者のQOLの尊重」「多職種連携」の重要性が示されていたと思います。これから高齢社会はますます進んでいきますが、当院は急性期病院として、地域の医療機関の皆様と共に高齢社会を支えていく所存です。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

⑤「改善コラム Part 5」 副院長・改善推進本部長 原田 雅光

～Value Stream Mapping『価値の流れ図』と診療～ V.S.M. ご存じですか？

改善の領域では、Value Stream Mapping（価値の流れ図）という手法があります。具体的に日常診療に当てはめてみましょう。①外来患者さんの受付から会計までのプロセスを、真に価値〔value〕のあるもの（問診→検査→診察→説明→処置・投薬→会計）と、価値のない〔non value〕もの（待ち時間）に分けて流れを図式化します。②それぞれの過程で、ムダ（価値のない）な部分を“見える化”し、職員がそれを共有・認識します。③そうすれば、自ずとそれぞれの問題点（価値のない無駄な時間）が把握・理解され改善行動に移行する。的な意味です。ポイントは、根拠の乏しい想像や仮定ではなく、現場・現実・現物（3現主義）を明らかにし、それを「見える化」することから始まります。

⑥地域医療連携室からのお知らせ

今後各種ご案内やお知らせ（医療連携懇話会案内・地域連携室便りなど）はメール配信を推奨させていただきますと考えております。他、県立中央病院ホームページのタイムリーな更新情報も順次配信予定です。メールでの配信を希望される医療機関様につきましては、お手数ですが、下記メールアドレスへ医療機関名を記載し、送信をお願いいたします。



ご意見

ご希望

<件名>メール登録（医療機関名）<本文>・医療機関住所、電話番号

E-Mail : c-renkei@eph.pref.ehime.jp

メールのご登録で…

医療連携懇話会の
動画配信が
ご覧いただけます！



動画配信
3つの
ポイント！



①
お好きな
時間に



②
繰り返し
再生！



③
3密
回避



お問い合わせ



愛媛県立中央病院 地域医療連携室 <担当>濱田・三好

TEL : 089-947-1111(代) FAX : 089-987-6271 E-mail : c-renkei@eph.pref.ehime.jp

次回第115回医療連携懇話会のお知らせ

日時 令和4年 6月8日(水) 19:00～20:20

テーマ 県立中央病院をまるごと ご紹介します

<座長> 地域医療連携室長 二宮 朋之

<講演> 県立中央病院29診療科のご紹介 動画上映
愛媛県立中央病院 各科主任部長

当院の29診療科の自科紹介スライドを上映いたします。患者様の紹介を検討される際に、ご参考いただけるようなご案内を企画しております。Web Live配信も行っておりますので、ぜひご参加ください。

<リンク先> 愛媛県立中央病院ホームページ

お申込・詳細はコチラから [Click!](#)

媛さくらネット

地域医療連携ネットワークサービス 媛さくらネット

詳しくはコチラから [Click!](#)

<リンク先>

愛媛県立中央病院ホームページ

地域連携室便り

次回6月号(No.26)は
6月中旬頃刊行の予定です。
お楽しみに！